

学習への意欲を持ち、心身ともに健康でたくましく生きる生徒の育成

～インクルーシブ教育を基盤とした思考力・判断力・表現力の育成～

## 研究主題設定の理由

本校の生徒は、非常に素直で、家庭学習をはじめ地道に努力を重ねることができる。幼少期より同じ集団で育ってきたことでお互いに分かりあえている部分もある反面、固定化された集団だからこそ発言力のある生徒が中心になってしまうところがあった。そのような現状を見つめ、誰にとっても学校生活が安心して楽しい場所になってほしいという願いから、すべての子どもが尊重し合い、認め合い、支え合える集団を目指し、「インクルーシブ教育」の第一人者である高知大学の是永かな子教授よりご教示いただいた。年に数回ではあるが、実際には是永教授に一人一人の見取りをしていただき、その後、生徒それぞれにあった必要な対応等を学んできた。結果、自己有用感や社会的適応感等の数値に向上がみられ、一人一人が責任をもって笑顔で何事も取り組める様子が見られだした。

3年目となる本年度は、「インクルーシブ教育」について更に研究を深め、昨年からの「学力の二極化」という大きな課題にも取り組もうと考え上記のテーマを設定した。

## 研究の重点

### I. 学び合う集団づくり… 教科経営における『個別最適な学び』の充実を図る環境づくり

〈授業づくり〉

- ・「めあて」と「振り返り」の整合性を図る授業展開（全教科統一）
- ・課題解決のための方法や手順を考えさせ説明させる場面の設定（個、グループ、全体）
- ・思考させる時間や場の設定（個、ペア、グループ）
- ・単元計画の見直しやテスト内容の工夫
- ・単元テスト（数学、理科）小テストの実施（課題の早期発見と弱点の克服指導）
- ・学習内容の定着を図るための指導の工夫
- ・基礎的学習（復習中心）と発展的学習の課題や、教え合い学習の設定
- ・根拠とともに述べる言語活動の充実
- ・教師の説明は簡潔に（授業における主役は生徒）
- ・教師は生徒のつなぎ役（生徒の思考と思考）

〈校内研〉

- ・1人2回以上の研究授業と事後研での検証
- ・教科間連携によるグループ別分析の報告

〈教科間連携〉…定期的なグループ会の実施

(A…理数教科 B…技能教科・特別支援 C…国社英教科)

- ・個別シート（成長シートの作成）
- ・一人一人に合った学習方法の研究
- ・表現力育成に向けた取り組みの共有

〈その他〉

- ・認知機能の育成を目指したコグトレの実施（毎週水曜日）
- ・一人一人に合った家庭学習
- ・「生活日誌」を活用した表現力の育成（コメントの充実）
- ・放課後や長期休業中の加力学習での課題克服
- ・さまざまな表現（言葉）との出会い「朝読書」
- ・教科への関心興味づけを目的とした環境づくり（図書館との連携含む）

## II. 高め合う集団づくり…学校目標に沿った学級経営及び組織的な特別活動、特別支援教育、生徒指導

〈学級経営〉

- ・全学年共通の流れを基本にした朝学活・終学活
- ・各種アンケート及び二者面談
- ・あったかプログラム等を活用した計画的・組織的な特別活動
- ・日常における生徒との対話（生活日誌指導含む）

〈自己肯定感の育成〉

- ・縦割り班による掃除や特別活動（「水泳大会」「球技大会」他）
- ・生徒会活動を中心とした行事の運営（「生徒総会」「窓ふきボランティア」他）
- ・創造し学び合える学校行事（「文化祭」他）
- ・幼小中連携による12年間の学び  
（「小中合同運動会」「小中合同音楽会」「小中合同マラソン大会」）
- ・地域との交流を深め、鏡文化の継承「男子太刀踊り」「女子創作活動」
- ・相手を意識した円滑なコミュニケーション能力の育成（安心した人間関係づくり）

〈その他〉

- ・一日のスタートを、心穏やかにさせる「朝読書」
- ・学校生活アンケート（年3回）、Q-U（年1回）、PIQ等各種アンケート  
（個々の内面と集団の現状を把握）
- ・不登校担当を中心にした学校カウンセラーとの連携
- ・さまざまなケースに応じた校内支援会（情報共有）